



三次神経内科クリニック 花の里

Vol. 3 2014. 秋号

— ご挨拶 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 —

今夏は8月に広島市で甚大な災害が発生し、9月には長野県御嶽山で大規模な噴火が起こり何れも多数の尊い命が失われました。更に日本に於いては70年振りにデング熱が流行。今や、世界が異常気象・感染・疾病そしてテロの様な人的被害等々大変厳しい環境と言えます。東日本大震災から3年半以上経ち、私が現在診療に携わっている多くの認知症患者さんを前に、あの時認知症の人たちはどの様に避難されたのだろうかといまだに想いを馳せております。今後もいつ、どこでどんな災害や生命を脅かす誘因が突如現れるのか、見当がつきません。増え続ける認知症の人を誰が、どの様に支え守って行けるのか。「まだ先の話。」ではなく目前に迫っている問題として、医療機関が関わる課題に相違はありません。以前に比べると認知症ケアは考え方や認識が変化し向上しています。

様々なBPSDは対応が難しいと言われていますが、薬物で抑えずとも症状のコントロールは可能であり、その方法は一人一人幾通りもあるはずで、それを見出し諦めずにケアを遂行する事が、治らない認知症の治療ではないでしょうか。

私たち医療機関は、その中心となり情報発信を続けて行かなくてはならずそれが役割でもあります。在宅介護が中心とならざるを得ない現状では、家族・介護関係者のみでなく地域を上げて支えて行く事が今後の認知症ケアには欠かす事が出来ないキーワードです。その為の模索を続けております。

— ご挨拶 ビハーラ花の里病院 神経内科部長 織田 雅也 —

地域の先生方、医療・福祉関係者の皆様には平素より大変お世話になっておりまして、誠にありがとうございます。

認知症をお持ちの患者様は、生活に必要な能力が徐々に低下していきます。地域での活動、旅行、外出、買い物など社会的な活動だけでなく、病気が進行すると清潔さの維持、更衣、食事、排泄など基本的な生活能力まで困難になります。これまでしっかりと活動してこられたのに、こんなこともできなくなるのかと悲観されるご家族も多いと思います。ご本人の状況をご理解頂くのに、「様々な能力低下の進行は小さいお子さんが成長していく過程と逆方向に後退していくようなものです、立派な大人のかたなので子ども扱いしてはいけません」とお話ししますと、「子どもを見守るような感覚で対応したらよいのです」と納得して頂けることもあります。患者様ご本人の元気が保たれることはもちろんですが、介護されるご家族のお気持ちも保って頂けるよう、時間には制約がありますが、いろいろとお話しさせて頂くことを心がけております。逆に、実際のケア対応など、ご家族さんから伺う内容が参考になることも多いです。

微力ではございますが、少しでもお役に立てるよう尽力して参りたいと存じます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

認知症相談専用電話窓口を 設置しております

【時間】 9:00~17:00

月~土(日・祝、休診日、盆正月は除く)

【電話】 0120-870-318 (相談窓口専用電話)

※看護師等が対応致します

医療法人微風会

三次神経内科クリニック花の里

〒: 728-0013

広島県三次市十日市東4-3-10

TEL: (0824) 63-0330

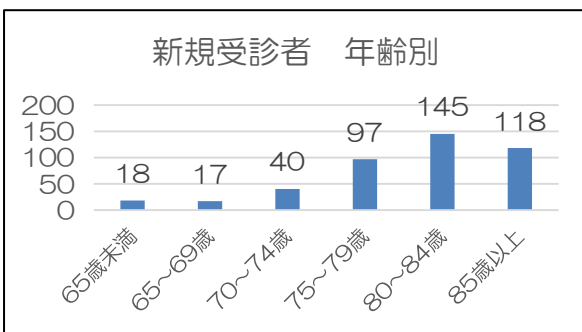
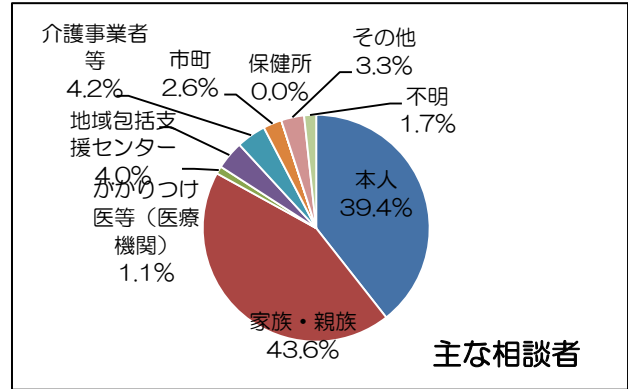
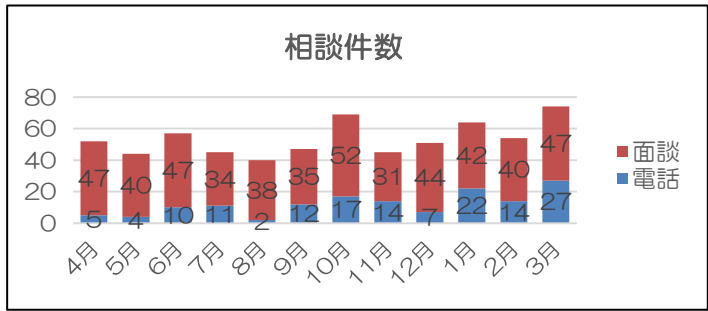
FAX: (0824) 63-0331

— 平成 25 年度 活動実績報告 —

当院が、認知症連携拠点医療機関の認定を受けてから1年半が経過しました。昨年度もたくさんの患者さんが受診されましたので、平成25年4月から平成26年3月までの実績を報告させていただきます。

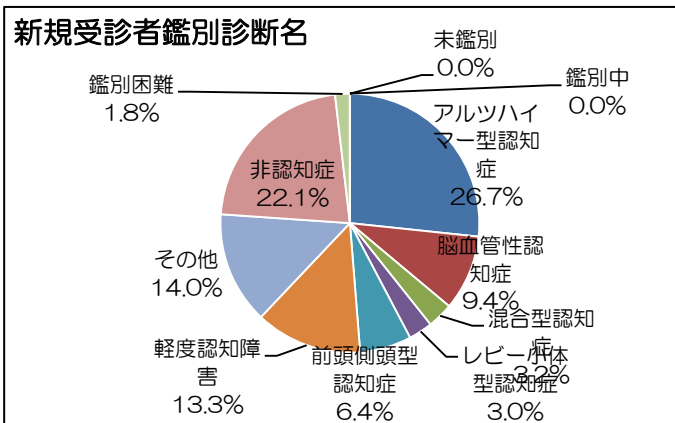
【認知症相談窓口】

昨年度の認知症相談窓口への相談件数は計642件でした。(内訳:電話 145件/面談 497件)主な相談者は、本人が4割を占めており、皆様の認知症に対する認知度と早期受診への意識の定着が進んでいるのではないかと感じております。



【新規外来受診】

昨年度の新規受診者は435名でした。地域別では、三次市の方が67.6%と多く、次いで庄原市の方が17.2%。その他安芸高田市や島根県の方も受診されております。新規受診者の方の鑑別診断の結果は、アルツハイマー型認知症の方が最も多いという結果でした。しかし、軽度認知症の方も多くおられ、ここでも地域の皆様の早期受診・早期対応への意識を感じております。



【その他】

- 研修会の実施 (H25年9月・H26年3月)
- 認知症疾患医療連携協議会の開催
- 情報発信 (広報誌・ホームページ)

研修会を実施しました



平成26年7月26日(土)に三次市保健福祉センター ふれあいホールにて認知症研修会を開催いたしました。研修会では、国立病院機構 柳井医療センター 副院長 宮地隆史先生に「『認知症』ってなんだろう?~認知症を理解するために~」と題し、認知症の具体的な症状や、検査内容、治療についてなどの幅広いお話をいただきました。また、公立学校共済組合 関東中央病院 神経内科部長 織茂智之先生には「第二の認知症・レビー小体型認知症を知っていますか」と題して、レビー小体型認知症の特徴や、現れやすい症状などについて詳しくお話しいただきました。当日は、研修会の開催にあたり、当クリニック院長の伊藤聖より、認知症連携拠点医療機関の現状等も報告させていただきました。当日は、三次市を始め、庄原市や安芸高田市からも足を運んでくださり、131名の関係機関・地域の方々が参加してくださいました。アンケート結果においても「よくわかった」と回答された方が50%以上という結果でした。今後も、皆様にとって有用な情報が提供できるよう、定期的に認知症研修会を実施してまいります。その際は、ぜひご参加ください。